

＝学校法人東海大学における高等教育の教育目標及び教育方針＝

大学・短期大学

建学の精神

創立者松前重義は、青年時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、内村鑑三の研究会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになりました。特にデンマークの教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意して「望星学塾」を開設しました。ここに東海大学の原点があります。

創立者松前はこの「望星学塾」に次の四つの言葉を掲げました。

若き日に汝の思想を培え
若き日に汝の体軀を養え
若き日に汝の智能を磨け
若き日に汝の希望を星につなげ

ここでは、身体を鍛え、知能を磨くとともに、人間、社会、自然、歴史、世界等に対する幅広い視野をもって、一人ひとりが人生の基盤となる思想を培い、人生の意義について共に考えつつ希望の星に向かって生きていこうと語りかけています。

本学園は、このような創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てることにより、「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を高く掲げ、歩み続けていきます。

教育目標及び教育方針

建学の精神に述べられている「創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材」の育成を目標とし、本学園は大学院・大学及び短期大学共通の教育方針を、以下のように掲げる。

教育の姿勢

教育において最も重要なことは、教育者の人間性及び教育に取り組む姿勢であり、これはいかなる教育組織や教育課程にも優る課題である。創立者松前重義が附属諸学校を創設してきた理念の一つに、知育偏重教育に対する深い憂慮があった。よって、本学園は建学の精神に基づく教育目標達成に向けて次のような教育姿勢を取るものである。

- ◆知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、自然、歴史、世界などについて深く学び、新しい文明を創造する力を養う教育に努める。
- ◆豊かな心と健やかな体の育成に努めると共に、個人の特性を見つけ、それを伸ばし、ひいては強い使命感を備え、社会に貢献できる人材を送り出すことを目指す。大学は、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、あるいは改善していくことのできる自主的、創造的人材を育成するため、自ら考える力、集い力、挑み力、成し遂げ力の「4つの力」をベースとする教育を展開する。
- ◆本学は、教育と研究の場において、学部・研究科等の専門性を重視しつつも、そのみに偏ることなく、より学際的視野に立ち、併せて活発な国際交流に努めると共に、本学園が総合的な教育研究機関であることの特性を生かし、多様な学術領域、いわゆる文系・理系の領域を融合した幅広い知識と国際性豊かな視野を持った人材の育成をはかる。
- ◆教育と研究とはバランスを保ちつつ行われるべきものであり、本学において教育に携わる者は、研究に対する真摯な姿勢に基づいてすべての教育に努める。
- ◆このために、各教育機関及び教職員は、本学園の教育の方針を十分理解すると共に、協働して教育の内容や方法の研究と改善を実施し、さらに自らの人間としての向上に努める。

現代文明論を中心とした教育

本学園の最大の特徴は、建学の精神を具現化した「現代文明論」を中心とした教育活動にある。

その目的は、創立者の思想を通して本学園建学の理念を理解させると共に、文明の過去・現在・未来をめぐって、広く自らの思想を培い、「人生にとって大切なものは何か」「我々はいかに生きるべきか」を考えさせ、しっかりしたものの方見方、考え方を養うことにある。

さらに教員は、学生に対して単に知識や技術の伝達のみを目的とするのではなく、各授業の展開のなかで、各自の専門分野を生かし、学問の進展の歴史的背景や学術上の成果の発展過程、及び人生や社会に対する影響や意義等にまで関わることにより、魅力のある豊かな授業を実践する。

こうした教育活動のなかで、人間、社会、自然、歴史、世界等について学生と共に考え、創立者が示した「物質文明と精神文明の調和した新しい文明とはいかにあるべきか」を探求する姿勢が重要である。

そして、広い視野と総合的な判断力で、調和のとれた文明社会の建設に大きな役割を果たす人材の育成を目指す。

創造性を育む教育

持続可能な社会を担えるような、創造性を備えた、様々な課題を解決できる人材を育成する。そのためには、一人ひとりの個性を伸ばし、イノベーションを生み出す教育のあり方を常に検討していかなければならない。

情報社会を生きる力の育成

高度情報社会においては、ICT（情報通信技術）により新たな価値を創出し、それを積極的に活用することが求められる。そのためには、コミュニケーションのあるべき姿について考え、情報の適切な利用方法について、その長所・短所を考慮しつつ適切に対応できる力を育成する教育を実践し、またそれに必要な環境も整備する。

グローバル化に対応した人材の育成

今日の日本は、世界の人々と交流しつつ平和のうちに生きていかなければならない。そのためには、異文化と国際関係を正しく認識し、グローバルな視野を持つと共に、国際社会における自らの役割を自覚した社会人の育成が求められる。

本学では、留学生の派遣及び受け入れをより活発に行うとともに、一方でグローバル人材に必要な語学力、自国の歴史と文化の理解、国際社会に通用する幅広い教養などを育むための具体的な方法論を検討し、着実に実践していく。

現代社会で必要とされる教養教育

高度な専門知識を身につけようとする学生は、教養ある現代市民として、それを人々の幸福や平和に活かすようにしなければならない。そのためには、学生に広い視野をもたせるよう、文系・理系の垣根を超えた、あるいはひとつの専門の枠を超えた組織的な教育の実践に努める必要がある。カリキュラム上では、開講科目の再検討のみならず学部・学科の枠を超えた弾力的な履修形態についての検討をおこなう。

特色ある学部・学科・大学院教育

各学部・学科・研究科等は、社会におけるその存在意義は何であるか、いかにあるべきか、という課題を常に念頭に置いて育成すべき人材像を設定し、教育と研究の内容及び方法に対する点検・評価を行い、自らの特色を明確にしなければならない。

さらに、他の学部・学科・研究科等における教育と研究の役割を認識し、それら相互の有機的な相関性にも配慮しつつ、教育の内容と方法の検討に努める。

豊かな心と健やかな体の育成

あらゆる困難に立ち向かう不屈の精神の持ち主として、意義ある人生を送ることができる人間性豊かな人材の育成をめざす。

そのため、すべての学生が基本的な生活習慣を確立できるように、各自の個性や健康と身体状況に応じた活動を支援する様々なプログラムや環境を整備することに心がける。

多様な個性を生かす正課外活動

正課外活動の役割は、各自の個性や健康と身体状況に応じたスポーツや文化・芸術活動等を通じて、心と体の健康を維持し、体力と情操を磨くための環境と機会を学生に与えることにより、人を愛し、社会を愛する豊かな人間性を育成することにある。

本学は、クラブ活動、学生会活動、社会奉仕活動、プロジェクト活動等を通して、コミュニケーション力、企画力、実践力、リーダーシップ、その他の多様な能力を引き出し、総合的判斷力や柔軟な思考力を養い得るよう、環境を整備し、適切な支援をしていかなければならない。

多様化した学生に対応する教育

本学の学生は、多様化した高校の教育課程を経てきた者、社会人、帰国子女、留学生、編入生、学内の転部科生、大学院への飛び級生等、その経歴や価値観などが著しく多様化しつつある。

彼らを積極的に受け入れると共に、より良い教育のために、学生の意識や主体性、基礎学力等の実態を考慮した初年次教育、キャリア教育等のプログラムを検討していく。また、今後の国内外の社会的な要請に応えられる卒業生を輩出するためには、本学で身につけた学力の質を保証する教育システムを構築する。

＝学校法人東海大学における初等中等教育の教育目標及び教育方針＝

高等学校・中等部

建学の精神

創立者松前重義は、青年時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、内村鑑三の研究会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになりました。特にデンマークの教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意して「望星学塾」を開設しました。ここに東海大学の原点があります。

創立者松前はこの「望星学塾」に次の四つの言葉を掲げました。

若き日に汝の思想を培え
若き日に汝の体軀を養え
若き日に汝の智能を磨け
若き日に汝の希望を星につなげ

ここでは、身体を鍛え、知能を磨くとともに、人間、社会、自然、歴史、世界等に対する幅広い視野をもって、一人ひとりが人生の基盤となる思想を培い、人生の意義について共に考えつつ希望の星に向かって生きていこうと語りかけています。

本学園は、このような創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てることにより、「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を高く掲げ、歩み続けていきます。

教育目標及び教育方針

建学の精神に述べられている「創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材」の育成を目標とし、本学園は付属諸高等学校・中等部共通の教育方針を、以下のように掲げる。

教育の姿勢

教育において最も重要なことは、教育者の人間性及び教育に取り組む姿勢であり、これはいかなる教育組織や教育課程にも優る課題である。創立者松前重義が付属諸学校を創設してきた理念の一つに、知育偏重教育に対する深い憂慮があった。よって、本学園は建学の精神に基づく教育目標達成に向けて次のような教育姿勢を取るものである。

- ◆知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、自然、歴史、世界などについて深く学び、新しい文明を創造する力を養う教育に努める。
- ◆豊かな心と健やかな体の育成に努めると共に、個人の特性を見つけ、それを伸ばし、豊かな感性と道徳性を有する人材を社会に送り出すことをめざす。
- ◆すべての生徒一人ひとりを大切に教育を展開する。生徒の人権を尊重し、生徒の学びを保障する学校づくりを推進する。
- ◆このために、各教育機関及び教職員は、本学園の教育の方針を十分理解すると共に、絶えず教育の内容や方法の研究と改善を行い、さらに自らの人間性の向上に努める。

現代文明論を中心とした教育

本学園の最大の特徴は、建学の精神を具現化した「現代文明論」を中心とした教育活動にある。高等学校は授業科目「高校現代文明論」を中心として、中等部は「現代文明論」を基調として、諸教科及び教科外活動を展開する。

「現代文明論」教育の目的は、創立者の思想を通して本学園建学の理念を理解させると共に、「人生にとって大切なものは何か」「我々はいかに生きるべきか」を生徒自らに考えさせ、しっかりしたものの見方、考え方を養うことにある。

各教科の授業は、知識を伝達するだけでなく、学習内容に関連させて、そこに含まれる歴史的背景や社会的意義等にまで発展することをめざす。それによって、生徒に自身の進路や将来、社会について深く考えさせるような魅力ある豊かな教育をおこなう。

「現代文明論」を中心とした教育の要点は、人間・社会・自然・歴史・世界等について深く思考し、自らの言葉で伝えあい、創立者が示した「物質文明と精神文明の調和した新しい文明とはいかにあるべきか」を常に探求する意欲を持つ人間を育てることにある。

そして、広い視野と総合的な判断力で、調和のとれた文明社会の建設に大きな役割を果たす人材の育成をめざす。

国際性豊かな視野を持った人材の育成

日本の歴史や文化に対する関心や理解の上に立って、多様な国や地域の文化を学び、相互に尊重する態度を育成する。

そのための教育、研究、研修、交流等のプログラムを発達段階に応じて立案し、積極的に推進する。

それによって、広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる人間としての自覚を高めるとともに、世界の人々と交流しつつ平和に貢献し得る人材の育成に努める。

外国語教育においても、国際性豊かな視野を持った人材となるための基礎としての語学力を意識した新しい語学教育をめざす。また、英語以外の外国語教育や、すべての教科で外国語にふれる機会を持たせる可能性も模索していく。

豊かな心と健やかな体の育成

あらゆる困難に立ち向かう不屈の精神の持ち主として、意義ある人生を送ることができる人間性豊かな人材の育成をめざす。

すべての生徒が基本的生活習慣を確立できるような学校と家庭が連携して取り組む。そのうえで、各自の個性や健康と身体状況に応じた活動を支援するさまざまなプログラムや環境を整備することに心がける。

創造性を育む教育

持続可能な社会を担える、創造性を備えた様々な課題を解決できる人材を育成する。そのためには、一人ひとりの個性を伸ばしイノベーションを生み出す教育のありかたをすべての教科で検討していく。

また、創造性を育む教育の一環として知的財産教育をおこなう。知的財産教育では、内的起業家精神を基盤として、生徒の達成感や自己肯定感を高め、新しいアイデア・発想を尊重する精神を養う。あわせて、個性の尊重が創造性と不可分であることを認識し、人間の持つ創造性のすばらしさの理解をめざす。

教科の学習における教育

論理的に思考し、知識や技術を習得しながら自ら向上し続けることができる真の学力を育成する。そのために、調査、実験、観察、考察等を通じて人間や社会や自然に興味を持たせ、幅広い視野に立って自ら問題を発見し、取り組み、解決するような学習活動を積極的に取り入れていく。

さらに、豊かな心と創造性の育成を目指し、学びの楽しさを実感できるように、教科横断的に教育の研究と実践に取り組む。

言語活動を基盤としたコミュニケーション能力の育成

言語は、論理的思考や知的活動の基礎となるものであるとともに、豊かな感受性や思いやりの心を培ううえでも重要な役割を担っている。

すべての基礎としての国語力はあらゆる教科の学習力の基盤となるものである。よって、国語教育はすべての教科で意識されなければならない。

すべての教科は「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つの要素を大切に、コミュニケーション能力を育成する。

教科外活動における教育

自主性や豊かな人間性を育成するために、部活動、生徒会活動、学級・ホームルーム活動、学校行事、社会に奉仕する活動等を積極的に推進する。

これら多様な活動を効果的に展開することにより、心身を鍛錬し、豊かな感性を磨くとともに、企画力・実践力・リーダーシップといった社会で必要とされる能力を育む。また、仲間との活動を通して、生命の尊さや人間関係の意義、他者を認め思いやる心、協調性や責任感、忍耐力を養う。

部活動においても全人教育をめざす。部活動を通じ、ルールやマナーを尊重し、勝利至上主義に陥ることなく、競い合うことの大切さを学ばせ、探究心や創造力を育成する。

教員は、生徒の可能性の伸張をはかるための指導目標を適切に設定し、自らの特技や持ち味を生かし、生徒と一体となった教科外活動を展開し、その理想実現に努力する。

基本的な生き方に繋がる理数教育

科学技術の発展は、社会や文化及び思想に大きな影響を与えてきた。したがって、理数教育が社会人としての基本的な生き方に多大の影響を与えることを認識し、自然科学への興味と関心を広げる。

理科・数学教育は単に知識を教授するのではなく、自然現象の観察、法則性の発見、検証を通じて論理的思考力を育てるといふ本来の姿を忘れてはならない。

同時にすべての教科は、社会と自然科学との関連をしっかりと理解し、論理的思考のもとに、社会に起こるさまざまな出来事を捉えて判断する力を育成する。

ICT（情報通信技術）の活用

ICTの活用は、インターネットからの情報収集や情報利用に留まらず、情報をふまえて自分の考えを持ち、他者とのやりとりを通じてさらに深く物事を考えるためのものである。

すべての教科はICTの活用にあたり、他者との協力によって、個人では成し得ない多くの情報収集や分析ができることを体験させ、自分が得た情報を伝えるため、創意工夫して発信する創造力を向上させる。

さらに、ICTによる人とのつながりにおいても、実生活のつながりと同様に倫理を重んじる態度を養う。

また、学園全体で学習教材を共有できるネットワークの構築と活用を推進する。

＝学校法人東海大学における初等中等教育の教育目標及び教育方針＝

小学校

建学の精神

創立者松前重義は、青年時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、内村鑑三の研究会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになりました。特にデンマークの教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意して「望星学塾」を開設しました。ここに東海大学の原点があります。

創立者松前はこの「望星学塾」に次の四つの言葉を掲げました。

若き日に汝の思想を培え
若き日に汝の体軀を養え
若き日に汝の智能を磨け
若き日に汝の希望を星につなげ

ここでは、身体を鍛え、知能を磨くとともに、人間、社会、自然、歴史、世界等に対する幅広い視野をもって、一人ひとりが人生の基盤となる思想を培い、人生の意義について共に考えつつ希望の星に向かって生きていこうと語りかけています。

本学園は、このような創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てることにより、「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を高く掲げ、歩み続けていきます。

教育目標及び教育方針

建学の精神に述べられている「創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材」の育成を目標とし、本学園は付属小学校の教育方針を、以下のように掲げる。

教育の姿勢

教育において最も重要なことは、教育者の人間性及び教育に取り組む姿勢であり、これはいかなる教育組織や教育課程にも優る課題である。創立者松前重義が付属諸学校を創設してきた理念の一つに、知育偏重教育に対する深い憂慮があった。よって、本学園は建学の精神に基づく教育目標達成に向けて次のような教育姿勢を取るものである。

- ◆知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、自然、歴史、世界などについて深く学び、新しい文明を創造する力を養う教育に努める。
- ◆豊かな心と健やかな体の育成に努めると共に、個人の特性を見つけ、それを伸ばし、豊かな感性と道徳性を有する人材を社会に送り出すことをめざす。
- ◆このために、各教育機関及び教職員は、本学園の教育の方針を十分理解すると共に、絶えず教育の内容や方法の研究と改善を行い、人間性の向上に努める。

現代文明論を基調とした教育

本学園の教育の特色は、建学の精神を具現化した「現代文明論」を中心に据え、すべての活動を展開するところにある。

その目的は、創立者の思想を通して本学園建学の理念を理解させると共に、「人生にとって大切なものは何か」「我々はいかに生きるべきか」を児童自らに考えさせ、しっかりしたものの方見、考え方を養うことにある。

各教科の授業は、知識を伝達するだけにとどまらず、学習内容に関連させて、そこに含まれる歴史的背景や社会的意義などにまで発展することをめざす。それによって、児童に自身の進路や将来、社会について深く考えさせるような魅力ある豊かな教育をおこなう。

「現代文明論」を中心とした教育の要点は、人間・社会・自然・歴史・世界などについて深く思考し、自らの言葉で伝えあい、創立者が示した「物質文明と精神文明の調和した新しい文明とはいかにあるべきか」を常に探求する意欲を持つ人間を育てることにある。

そして、広い視野と総合的な判断力で、調和のとれた文明社会の建設に大きな役割を果たす人材の育成をめざす。

国際性豊かな視野を持った人材の育成

日本の歴史や文化に対する関心や理解の上に立って、多様な国や地域の文化を学び、相互に尊重する態度を育成する。

そのための教育、研究、研修、交流等のプログラムをそれぞれの発達段階に応じて立案し、積極的に推進する。

それによって、広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる人間としての自覚を高めるとともに、世界の人々と交流しつつ平和に貢献し得る人材の育成に努める。

豊かな心と健やかな体の育成

あらゆる困難に立ち向かう不屈の精神の持ち主として、意義ある人生を送ることができる人間性豊かな人材の育成をめざす。そのため、全児童が基本的生活習慣を確立できるよう、各自の個性や健康と身体状況に応じた活動を支援する様々なプログラムや環境を整備することに心がける。

基本的生活習慣

規則正しい生活習慣を身につけることは、将来の自立した生活を営む上で最も基盤となるものである。それは単に毎日の生活を円滑に行う手段であるにとどまらず、ひいては健康的で文化的な人生を送る基盤でもある。自律ある生活習慣は、望ましい学習に取り組む姿勢にも繋がり、落ち着いて安定した生活態度にも通じるものである。よって家庭・保護者との連携を密にして、心身ともに健康で、明るくメリハリのある豊かな生活習慣の涵養をめざす。

教科の学習における教育

単に知識を与え、技術の習得を中心とした学習に終始するのではなく、人生を生きる上での基盤となる学習の基礎基本の習得に努める。とりわけ、基本的な生活習慣の涵養の上に立ち、児童が自ら「なぜ・どうして」という視点をもって問題を発見し、取り組み、深く考えて解決する能力の育成をめざす。また、豊かな創造性を育み、よくモノを見ることと考えることに繋がる学習を各教科の特性を通して学び、幅の広い視野の育成を図る。

すべての基礎としての国語教育

すべての基礎としての国語力は、あらゆる教科の学習力の基盤となるものであり、ひいては長く人生を生きていく上での力となる。その内容は読解力はもとより、判断力・コミュニケーション力など広い範囲に及ぶものであり重要不可欠な分野である。自らの意思の伝達や他の分野、異文化などへの尊重と理解など、自立した社会生活を送る上で必要な基礎的な国語の能力の習得に努める。

基本的な生き方に繋がる理数教育

科学技術の発展は、社会や文化及び思想に大きな影響を与えてきた。したがって、理数教育が社会人としての基本的な生き方に多大な影響を与えることを認識し、理科や算数への興味と関心を広げる。すなわち、自然現象を観察し、自然に触れ、驚き、遊ぶそのなかから法則性を発見し確かめるといった理数教育本来の姿を忘れてはならない。同時に、社会と自然との関連をしっかりと認識して、社会に起こるさまざまな出来事を捉えて判断する力を育成する。

ICT（情報通信技術）の活用

ICTの活用は、インターネットからの情報収集や情報利用に留まらず、情報をふまえて、自分の考えを持ち、他者とのやりとりを通じてさらに深く物事を考えるためのものである。すべての教科はICTの活用にあたり、他者と協同して取り組む活動を通して、収集した情報を整理・分析し、思考する活動へと高めるとともに、他者に伝えたり、まとめたりすることで自分の考えを明らかにさせる。さらに、学園全体で学習教材を共有できるネットワークの構築と活用を推進する。

教科外活動における教育

自主性や豊かな人間性を育成するために、部活動、児童会活動、学級活動、学校行事、社会に奉仕する活動等を積極的に推進する。これら多様な活動を効果的に展開することにより、心身を鍛錬し、豊かな感性を磨くとともに、企画力・実践力・リーダーシップといった社会で必要とされる能力を育む。また、仲間との活動を通して、生命の尊さや人間関係の意義、他者を認め思いやる心、協調性や責任感、忍耐力を養う。部活動においても全人教育をめざす。部活動を通じ、より良い人間関係の持ち方や、礼儀を学ばせ、技術や知識の習得、向上にも努力させ、学校生活に生かせるようにする。教員は、児童の発達段階と特性に応じた指導目標を適切に設定し、児童と一体となった教科外活動を展開し、その目標達成に努力する。

創造性を育む教育

持続可能な社会を担える創造性を備えた様々な課題を解決できる人材を育成する。そのためには、一人ひとりの個性を伸ばしイノベーションを生み出す教育のありかたをすべての教科で検討していく。また、創造性を育む教育の一環として知的財産教育をおこなう。知的財産教育は、内的起業家精神を基盤として、発達段階に応じて創造性を育むことに主眼を置く。なぜ・どうしてという疑問を持ち、新たな発見や問題解決力をつけ、ひいては知的創造物への観察などを通して生きる力を育むことをめざす。

=学校法人東海大学における幼児教育の教育目標及び教育方針=

幼稚園

建学の精神

創立者松前重義は、青年時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、内村鑑三の研究会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになりました。特にデンマークの教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意して「望星学塾」を開設しました。ここに東海大学の原点があります。

創立者松前はこの「望星学塾」に次の四つの言葉を掲げました。

若き日に汝の思想を培え
若き日に汝の体軀を養え
若き日に汝の智能を磨け
若き日に汝の希望を星につなげ

ここでは、身体を鍛え、知能を磨くとともに、人間、社会、自然、歴史、世界等に対する幅広い視野をもって、一人ひとりが人生の基盤となる思想を培い、人生の意義について共に考えつつ希望の星に向かって生きていこうと語りかけています。

本学園は、このような創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てることにより、「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を高く掲げ、歩み続けていきます。

教育目標及び教育方針

建学の精神に述べられている「創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材」の育成を目標とし、本学園は附属諸幼稚園共通の教育方針を、以下のように掲げる。

教育の姿勢

教育において最も重要なことは、教育者の人間性及び教育に取り組む姿勢であり、これはいかなる教育組織や教育課程にも優る課題である。創立者松前重義が附属諸学校を創設してきた理念の一つに、知育偏重教育に対する深い憂慮があった。よって、本学園は建学の精神に基づく教育目標達成に向けて次のような教育姿勢を取るものである。

- ◆知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、自然、歴史、世界などについて深く学び、新しい文明を創造する力を養う教育に努める。
- ◆豊かな心と健やかな体の育成に努めると共に、個人の特性を見つけ、それを伸ばし、豊かな感性と道徳性を有する人材を社会に送り出すことをめざす。
- ◆このために、各教育機関及び教職員は、本学園の教育の方針を十分理解すると共に、絶えず教育の内容や方法の研究と改善を行い、さらに自らの人間性の向上に努める。

現代文明論を基調とした教育

本学園の教育の特色は、建学の精神を具現化した「現代文明論」を中心に据え、すべての活動を展開するところにある。

「現代文明論」の教育の目的は、創立者の思想を通して本学園建学の理念を理解させると共に、「人生にとって大切なものは何か」「我々はいかに生きるべきか」を幼児自らに考えさせ、しっかりしたものの方見、考え方を養うことにある。

各保育教育は、知識を伝達するだけにとどまらず、学習内容に関連させて、そこに含まれる歴史的背景や社会的意義などにまで発展することをめざす。それによって、幼児に将来の夢について深く考えさせるような魅力ある豊かな教育をおこなう。

「現代文明論」を中心とした教育の要点は、人間・社会・自然・歴史・世界などについて深く思考し、自らの言葉で伝えあい、創立者が示した「物質文明と精神文明の調和した新しい文明とはいかにあるべきか」を常に探求する意欲を持つ人間を育てることにある。

そして、広い視野と総合的な判断力で、調和のとれた文明社会の建設に大きな役割を果たす人材の育成をめざす。

国際性豊かな視野を持った人材の育成

日本の歴史や文化に対する関心や理解の上に立って、多様な国や地域の文化を学び、相互に尊重する態度を育成する。

そのための教育、研究、研修、交流などのプログラムをそれぞれの発達段階に応じて立案し、積極的に推進する。

それによって、広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる人間としての自覚を高めるとともに、世界の人々と交流しつつ平和に貢献し得る人材の育成に努める。

豊かな心と健やかな体の育成

あらゆる困難に立ち向かう不屈の精神の持ち主として意義ある人生を送ることができる人間性豊かな人材の育成をめざす。

すべての幼児が基本的な生活習慣を確立できるよう学校と家庭が連携して取り組む。そのうえで、各自の個性や健康と身体状況に応じた活動を支援するさまざまなプログラムや環境を整備することに心がける。

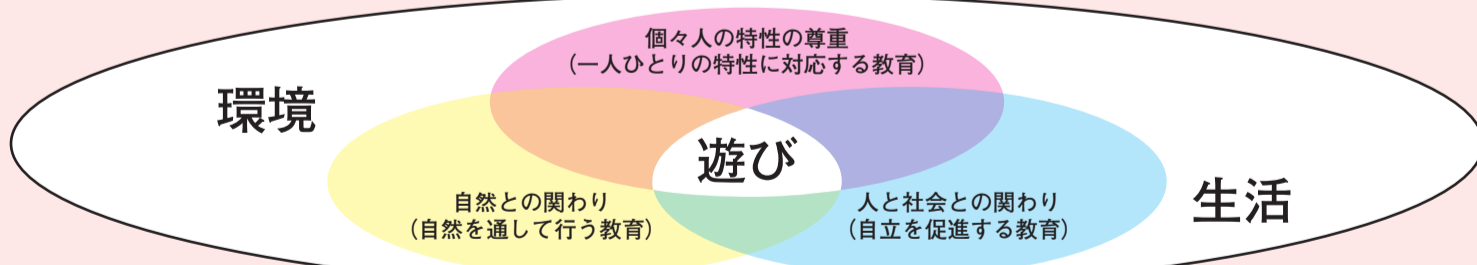
創造性を育む教育

持続可能な社会を担える、創造性を備えた様々な課題を解決できる人材を育成する。そのためには、一人ひとりの個性を伸ばしイノベーションを生み出す教育のありかたを検討していく。

また、創造性を育む教育の一環として知的財産教育をおこなう。知的財産教育は、内的起業家精神を基盤として、発達段階に応じて創造性を育むことに主眼を置く。なぜ・どうしてという疑問を持ち、新たな発見や問題解決力をつけ、ひいては知的創造物への観察などを通して生きる力を育むことをめざす。

遊びを中心とした総合的な教育

幼児教育における「遊び」は、幼児の総合的な育ちを達成する有効な手段である。この「遊び」を中心とし教育の内容や方法を研究し、綿密な計画を立案することが重要である。また、幼児の発達段階や欲求に応じた対応を常に心がけることによって、自立を促し、集団適応力の芽生えを援助し、強靱で感性豊かな人材の育成をめざす。



自然との関わり

自然を通して行う教育

教育の場に多くの自然を残す努力をし、自然との触れ合いの場を多く与える工夫をすることによって、自然の美しさ、厳しさや偉大さを知り、自然との共生のなかで生きることの大切さを学ぶことができる。

幼児が生命や宇宙の不思議さに驚嘆し、植物や昆虫などの生物の生態に好奇心を持つことにより、愛、美しさ、驚きなどに関わる感性を効果的に身につけることができるようになる。

これらのことから、自然を通して行う教育の開発研究を推進する必要がある。

個々人の特性の尊重

一人ひとりの特性に対応する教育

幼児は、遊びのなかから、興味や関心、生活技術、友達との触れ合いの大切さを知り、これらが総合的に関わって、一人ひとりがそれぞれの特性をもって発達していく。

教員は、幼児の様子をよく観察し、記録し、家庭との連携を深め、それぞれの特性を的確に把握することによって、幼児との信頼関係を醸成していく努力が必要である。

教員は、それぞれの特性の把握と、それに応じた特色ある指導法の開発・工夫に取り組む。

人と社会との関わり

自立を促進する教育

人と社会との関わりをさまざまな方法で体験したり、仲間との遊びを活性化することによって、お互いに競い、許し、認め合うことを学び、集団に適応する力が培われる。

そのために、友達との関わりをなかで、自主的に行動したり、話し合いながら仲間と共に作業ができるようなプログラムを提供しなければならない。

また、生活の場を拡げることにより、社会にはいろいろな人々や仕事や職場があることを、さまざまな体験を通して知らせることが大切である。